

高岡の「ものづくり」をたどる

⑤“御拝領地”金屋町のものづくり始め

碁盤の目状の町割りの西から北を、千保川が流れています。江戸前期までは大河(庄川の本流)でした。利長は、街中の防火のために、ここに鋳物師を呼び寄せ、土地を与えました。金屋町の始まりです。

もともとはスキ、クワ、ナベ、カマなど農具や生活物資をつくる基地でした。やがて鉄鋳物の他に、梵鐘や仏具などの銅器製品も鋳造するようになり、明治時代を迎えると高岡銅器は積極的に国内外の博覧会に出品され、注目を集めるようになりました。



溶けた金属を型に流し込む鋳込み風景

⑥400年の鋳物の歴史をたどる

鋳物とは、熱く溶かした金属を型に流し込んでつくるもの。金屋町にある高岡市鋳物資料館では、鋳物産業の歴史を紹介する資料や初期の鋳物製品、さまざまな道具などを展示しています。金屋町の家の特徴である千本格子(さまのこ)のつくりをした小さな博物館で、400年の歴史をたどってみましょう。

現在、高岡ではアルミやスズの商品の開発も活発に行われていますが、それらはすべて金屋町が礎となっています。



高岡市鋳物資料館

⑦高岡漆器の誕生ものがたり

高岡の伝統的工芸品は、高岡銅器のほかに高岡漆器があり、高岡開町とともに始まったといわれています。

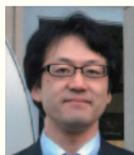
新川郡大場村(現在の富山市)から高岡の指物屋町(現川原本町)に移り住んだ指物職人が、タンスなどに朱漆を塗って広めたとされます。

明治に入って、富山県工芸学校(現在の富山県立高岡工芸高等学校)の校長と教頭がデザイン・制作した「鯛盆」が全国的なヒット商品となりました。



「双鯛彫刻漆器大盆」青井記念館美術館蔵

高岡市立博物館では、常設展「高岡ものがたり」で、古代から現代までの高岡の歴史や人物などについて紹介しています。



監修 仁ヶ竹 亮介

高岡市立博物館 主査学芸員。
博物館は、高岡城跡(高岡古城公園)内にあり、高岡の歴史・民俗・伝統産業等の資料を収集保存、調査研究、展示、教育普及等を行っている。
ウェブサイトのほかにTwitterやFacebookも更新中。

TAKAOKA QUEST 高岡を探検する

高岡の町を古地図で解読する

加賀前田家2代当主前田利長によって開かれた高岡は、関野と呼ばれた地に計画的に作られた町です。

今も城跡が残り、開町当時の町割りをたどることができます。



「高岡中古之図」(部分)1764~81年頃(高岡市立博物館蔵)

高岡城と高岡台地のものがたりを歩く

①始まりは、高岡城から

高岡城が築かれたのは、「台地」の上です。台地の北側から西側にかけて大きな沼地が広がり、利長はこの沼地を利用して城を築きました。城の西側に1段低い台地があり、利長はここに碁盤の目状に町割りをしました。高岡城跡(高岡古城公園)から高岡大仏まで歩いてみましょう。高岡大仏前の交差点から坂になって下っています。



②大仏さまと坂下町と高岡御車山

高岡大仏の前は、坂下町通り。毎年5月1日の高岡御車山祭の日、7基の御車山は、この坂を上り、そのままの向きで下ります。

高岡御車山は、利長が秀吉ゆかりの御所車を町民に与えたことが始まりで、坂を上るのは高岡の利長にあいさつをした名残と言われています。この坂は、殿と町民たちをつなぐ坂でした。

明治時代になり、高岡町民と職人たちの力を結集した青銅の高岡大仏が計画され、20有余年をかけて完成しました。



高岡大仏

③台地のへりに高岡御車山が眠る

高岡台地を城から西に歩いて行くと、やがて高岡関野神社横に出ます。ここが、高岡台地の角で、防御のために坂道をクランクさせています。

1983年、神社横に御車山収蔵庫が建てられました。台地のへりを利用した設計になっており、さまざまな素材で構成される御車山を、快適な状態で保管できるようになっています。



御車山収蔵庫

④足を伸ばして、高岡御車山会館へ

今度は北西へ向かって歩いてみましょう。地図に御馬出町と書かれた通りを進み、高岡郵便局で右へ曲がると山町筋と呼ばれる通り(旧北陸街道)にでます。明治の大火で家が焼けた後、防火建築である「土蔵造りの家」が建てられました。

この通りに、「高岡御車山会館」があり、1年中高岡御車山とその工芸品などを鑑賞することができます。



展示される守山町の御車山

※高岡御車山とその工芸品については、「MOVIN」Vol.24をご覧ください。
※高岡御車山会館の御車山展示は、4か月ごとに展示替えになります。